

6

鉛筆を正しく持てるようにするスキル

【準備物】 持ち方の表示、鉛筆持ち方矯正具「はなまるくん」、「鉛筆ホルダー」

教師の意図

合言葉や補助具を活用して、鉛筆が正しく持てるようにするため。

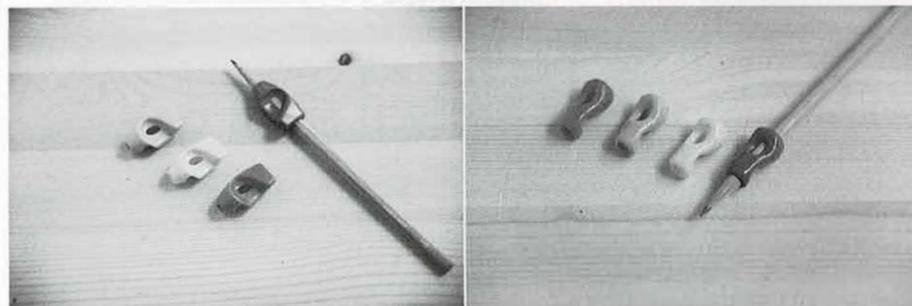
(近藤 佳織)

取り組み方・手順

- ①国語の時間などに正しい鉛筆の持ち方を指導する。
- ②学年で相談して補助具を購入し、使用する。
- ③鉛筆に差し込み、人さし指と親指の位置を確認し、使用する。
- ④付けたまま筆箱にしまっておく。

ここがポイント！ 合言葉化し、日常で確認する

鉛筆は、親指と人さし指で挟んで持ち、中指は鉛筆に添えます。鉛筆が手前に倒れているか確認します。「親指と人さし指でオッケー (=輪をつくる)。そして中指をチュ (=くっつける)。あとはキュー (=握る)」。これを合言葉のようにし、「オッケーつくって中指チュ。キュー」と声をかけ、持ち方を確認することができます。親指を使えない子どもは、鉛筆を逆向きに倒してしまいがちです。親指と人さし指を補助具のへこみに合わせることで、中指が鉛筆に添えやすくなります。



はなまるくん

鉛筆ホルダー

(有) エルプラス <https://erupurasu.co.jp>

左は「はなまるくん」で、鉛筆の削られた部分で固定される仕組みになっており、右利き用と左利き用がある。右の「鉛筆ホルダー」は左右兼用で使える。鉛筆に差し込んで使用する。

これをやったらアウト！ しつこい叱責と矯正を急ぐ

発達の状態により、入学時に正しく鉛筆を持つことができる子ども、正しい持ち方を指導すればすぐにできる子ども、時間がかかる子どもと様々です。不器用な子どもの多くは、指の機能分化に課題が見られることがあります。そのことをふまえ、すぐに持ち方を直そうと叱責を繰り返したり、指導すれば全員が正しく持てるようになると考えすぎたりしないことです(給食時の箸の持ち方についても同じことが言えます)。

長い目で見て、継続した指導を行っていく必要があります。

学習アイテム